

令和8年4月22日

## 京都経済情勢報告

(令和8年4月判断)

### 1. 総論

【総括判断】「京都府内の経済情勢は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回 (8年1月判断)	今回 (8年4月判断)	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→

(注) 8年4月判断は、前回8年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、回復に向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回 (8年1月判断)	今回 (8年4月判断)	前回比較
個人消費	回復に向けたテンポが緩やかになっている	回復に向けたテンポが緩やかになっている	→
生産活動	持ち直している	持ち直している	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
観光	回復している	回復している	→
設備投資	7年度は前年度を上回る見込みとなっている	7年度は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	7年度は増益見込みとなっている	7年度は増益見込みとなっている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

## 2. 各論

### 【主な項目】

#### ■ **個人消費** 「回復に向けたテンポが緩やかになっている」

**百貨店・スーパー販売**は、前年を上回っている。百貨店は、国内需要が回復基調にあることなどから、前年を上回っている。スーパーは、物価高の影響により販売価格が上昇していることなどから、前年を上回っている。

**コンビニエンスストア販売**は、京都市内を中心とした観光需要などから、前年を上回っている。

**乗用車の新車登録届出台数**は、一部の自動車メーカーにおける生産が回復基調にあった前年の反動を受けたことなどから、前年を下回っている。

**家電販売**は、新生活需要により白物家電が好調であったことなどから、前年を上回っている。

**ドラッグストア販売**は、京都市内を中心としたインバウンド需要が堅調であることなどから、前年を上回っている。

**ホームセンター販売**は、物価高の影響により販売価格が上昇していることなどから、前年を上回っている。

これらのことから、個人消費は回復に向けたテンポが緩やかになっている。

- 中国人客の減少によりインバウンド客数は大幅に減少しているものの、買上点数が増加したことから免税売上は前年を上回っている。また、地元客が戻りつつあることから、国内向けで婦人服や食料品の売行きが好調となっている。(百貨店)
- 物価高により販売価格が上昇しているほか、大容量品を割安で販売するなどの取組みに力を入れたことにより、客単価が上昇したため、売上げが増加している。(スーパー)
- 京都市内など中心部では、中国人客が減少している一方で、その他の諸外国や日本人客が増加するなど、観光客を中心に好調さを維持している。(コンビニエンスストア)
- メーカーにおける生産状況が回復基調にあったことから登録台数が増加傾向にあった前年同期の反動を受けたことにより、登録台数が前年を下回っている。(自動車販売)
- 販売価格が上昇する中、新生活需要により大型白物家電の売行きが好調であった。(家電量販店)
- 花見のシーズンが到来したことによりインバウンド需要が堅調である。(ドラッグストア)
- 来店客数および買上点数は減少しているものの、値上げにより客単価が上昇している。足下では、防災意識の高まりにより防災・防犯用品の売上げが伸びている。(ホームセンター)

#### ■ **生産活動** 「持ち直している」

**鉱工業生産指数**で見ると、電気機械などが上昇しているものの、化学、生産用機械などが下降している。また、企業からは、世界的なデータセンター増設の流れを受け、半導体関連製品の需要が引き続き高水準で推移しているとの声が聞かれている。

これらのことから、生産活動は持ち直している。

- 中国における AI 関連の設備投資需要が拡大傾向にあることから、半導体製造装置関連製品の需要が堅調であるほか、データセンター向けの検査装置需要が伸長している。(電気機械)
- 生成 AI 関連市場が活況であることから、高性能サーバー部品向け製品の需要が旺盛であるものの、受注が拡大基調にあった前四半期比で見るとやや落ち着きがみられている。(化学)
- データセンターが増設される中で、大量のデータを高速処理する際に必要となる次世代半導体メモリの需要が拡大基調にあることから、半導体製造装置の受注が好調である。(生産用機械)
- 自動車用エンジンおよびエンジン部品が海外向けで好調であることから、生産数量が増加傾向にある。(輸送機械)

## ■ **雇用情勢** 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は、下降基調にあるものの、引き続き高い水準で推移していることなどから、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

- 半導体関連製品の旺盛な需要を受けて、エンジニアや製造ラインの人員が不足している。製造ラインについては求人募集のほか、協力企業へのアウトソーシングに注力している。(生産用機械)
- 少子化に伴う学生アルバイトの減少もあり、店舗の人手不足が深刻であることから、省人化システムの利用に加え、AI活用による業務効率化に関する研修を実施している。(小売)
- 調理師を目指す学生の減少もあり、レストラン部門の調理師が慢性的に不足していたが、令和8年度内定者を一定数確保できたことから、不足感はやや改善する見込み。(宿泊)
- 今後の非正規職員の賃上げに伴うコスト増への対応として、稼働人員の削減や勤務時間の短縮によるコスト抑制を検討している。(小売)

## ■ **観光** 「回復している」

外国人利用割合が前年を下回って推移しているものの、平均客室単価は前年を上回り、客室稼働率が概ね前年並みを維持している。

これらのことから、観光は回復している。

- 客室稼働率がやや低下しているものの、客室単価が上昇したことにより売上は概ね前年並みで推移するなど堅調。中国人客が減少しているが、台湾や韓国、東南アジアからの宿泊客が増加しているため、影響は受けていない。(宿泊)
- 客室稼働率が概ね前年並みで推移する中、客室単価を上げたことにより売上は増加している。当期は、欧米や台湾からの宿泊客が増加したほか、京都市内の混雑を避けていた層や大阪・関西万博に流れていた日本人客が戻りつつある。(宿泊)
- 国内旅行者・インバウンド客ともに前年比で見ると増加基調にある。中国人団体客の大幅な減少により一部の事業者で影響がみられているものの、個人の中国人客は引き続き訪日しているほか、北米を中心として別地域からの入客数が増加しているため、影響は限定的である。(経済団体)

## ■ **設備投資** 「7年度は前年度を上回る見込みとなっている」(全産業)「法人企業景気予測調査」8年1~3月期

製造業では、生産用機械、業務用機械など、ほとんどの業種で前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

非製造業では、運輸・郵便などが前年度を下回っているものの、不動産、宿泊・飲食サービスなどが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

## ■ **企業収益** 「7年度は増益見込みとなっている」(全産業)「法人企業景気予測調査」8年1~3月期

製造業では、生産用機械などが減益となるものの、情報通信機械、化学などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

非製造業では、医療・教育などが減益となるものの、小売、卸売などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

### 【その他の項目】

#### ■ **住宅建設**

新設住宅着工戸数(後方3か月平均)で見ると、前年を下回っている。

#### ■ **公共事業**

前払金保証請負金額累計で見ると、前年を上回っている。

#### ■ **企業倒産**

倒産件数は、前年を上回っている。

#### ■ **企業の景況感**

法人企業景気予測調査(8年1~3月期調査)の景況判断BSIで見ると、現状判断は全産業で「下降」超となっており、規模別では、大企業は「上昇」超、中堅企業、中小企業は「下降」超となっている。先行きについては、全産業で「下降」超で推移する見通しとなっている。